

PICTORIAL SOURCES ON THE UNITED STATES IN WORLD WAR I

図像で見るアメリカの第一次世界大戦



第一次世界大戦におけるアメリカの貴重な写真・図画資料を復刻

Part 1 [全2巻]

定価 本体 86,000円+税 ISBN 978-4-86340-247-8 ・ A4横判 ・ 930 pp. (incl. 1 col.), ill.

Part 2 [全1巻]

定価 本体 42,000円+税 ISBN 978-4-86340-248-5 ・ A4判 ・ 454 pp., ill.

Part 3 [全1巻]

定価 本体 45,000円+税 ISBN 978-4-86340-249-2 ・ A4判 ・ 500 pp. (incl. 3 col.), ill.

Athena Press

【内容について】

写真や絵画を載せた5タイトルを3つのパートに構成。Part 1とPart 2に入る3タイトルは参戦したアメリカ軍の写真や絵画を収録したもの。Part 3の2タイトルは主にアメリカ人画家が戦争を見て描いた絵画を収録したもの。



Part 1

William E. Moore & James C. Russell, eds. **U.S. Official Pictures of the World War: Showing America's Participation (1920) & The United States Navy in the World War: Official Pictures (1921)**

ISBN 978-4-86340-247-8 • A4横判 • 930 pp. (incl. 1 col.), ill. • 全2巻定価 本体86,000円+税

Topics include: We Go to War • Training and Trench Fighting • Cantigny: Our First Offensive on European Soil • Chateau Thierry: Saving Paris • St. Mihiel: The American First Army in Action • The Meuse-Argonne: Smashing the German Pivotal Position • Operations of the Second Army • On Other Fronts: British, Italian, Russian • The Services of Supply • Conquering the U-Boat • Victory and the Armistice • Women in the War • Welfare Organizations in the War • The Medical Corps in the War • The Combat Divisions • The Three Decorations for American Soldiers • Final Report of Gen. John J. Pershing • America's Amazing Achievement • [Navy:] Naval Overseas Transportation • Trans-Atlantic Flight • The United States Marine Corps

アメリカ陸海軍の戦争での活動の公式写真集で連邦政府のPictorial Bureauの刊行。二名の編集者はニュースや写真の検閲をしていた軍情報士官。モア Mooreは新聞編集者でフランスの前線で活動、ラッセル Russellは国内の陸軍大学(U. S. Army War College)の所属。ここに取り上げる2冊は独特の写真コレクションで、国内での募兵、練兵から停戦に至るまでのアメリカ軍の活動を時系列に示しており、女性や医療スタッフの働きにも注意が払われている。第1巻は陸軍の働きを記録したもので巻末にパーシング将軍の最終報告を掲載。第2巻はアメリカ海軍の働きを記録したもの。

Part 2

Frank J. Mackey & Marcus Wilson Jernegan, eds. **Forward – March!: The Photographic Record of America in the World War and the Post-War Social Upheaval (1934) 2 vols**

ISBN 978-4-86340-248-5 • A4判 • 454 pp., ill. • 合本全1巻定価 本体42,000円+税

Topics include: General John J. Pershing's Report • The Cost of the War • The Draft • Recruits • Training • The White Parade: nurses, medical units, hospitals • Activities of the Navy • Army Operations: trenches, poison gas, prisoners of war • American Armies in Action • Fini la Guerre: marching to Germany, peace conference, homeward bound, parades and cheers, "forgotten men", "What Price Glory" • The World in Revolt • Communistic Activities in the U.S.A. • Rabblers: the strike epidemic, agitators and leaders, "Call Out the Guard", demonstrations against the Government, loyalty of world war veterans • A Proposed Counter-Offensive • Another World War Looms on the Horizon • Can the United States Keep Out of the Next World War?

世界大戦アメリカ傷痍軍人会(DAV)による、資金集めを目的とした出版物。DAVは第一次世界大戦からの復員兵とりわけ傷痍軍人への支援のために1920年に活動を開始した組織。徴兵から停戦までの写真を時系列に配置したものだが、戦後のアメリカ社会の激動についても書かれていて興味深い内容となっている。20万人以上の兵士が病気や負傷、精神的な不調を抱えて復員、その多くは身体障害者であったが、国が戦争に対する準備が十分でなかったことから、こうした人々に対する支援も全く不足した状況だった。その上、戦後半年も経たないうちに、従軍兵のほぼ半数が兵役を解除され、戦時下の人手不足の中で労働力に組み込まれた女性たち、さらに南部から各地へ移動した40万人のアフリカ系アメリカ人たちと、少ない就職口を争うことになった。長年の景気後退と大量の失業者は経済を失速させ、社会不安の拡大を引き起こした。こうした中で世界が再び動揺を見せ始めた1934年に本書は刊行され、"Can the United States Keep Out of the Next World War?"と締めくくられている。編者の一人、Marcus Wilson Jerneganはシカゴ大学教授(アメリカ史)。

Part 3

Albert Eugene Gallatin, ed. **Art and the Great War (1919) & George J. Hecht, ed. The War in Cartoons: A History of the War in 100 Cartoons by 27 of the Most Prominent American Cartoonists (1919)**

ISBN 978-4-86340-249-2 • A4判 • 500 pp. (incl. 3 col.), ill. • 合本全1巻定価 本体45,000円+税

Topics include: Former War Pictures • America's Failure to Make Adequate Pictorial Records • Art Museums and the War • American Federation of Arts • National Arts Committee • Division of Pictorial Publicity • Official Artists • War Pictures Painted in America • Posters • Cartoons • Sculpture • Allied War Salon

戦後間もない1919年に刊行された2冊。共に広報委員会(CPI)で活動した人物によるもの。Art and the Great Warは連合国の戦争芸術を、絵画、ポスター、漫画、彫刻などの多くの例を挙げて論じたもの。編者ギャラティンGallatinは芸術の収集家で批評家。戦争中はCPIの博覧会委員会を率いたほか、ニューヨーク州の芸術家の戦争協力を取りまとめる組織でも中心的な立場にあった。またニューヨークの「連合軍サロン」のような戦争展覧会を開催した。The War in Cartoonsは「27人の一流のアメリカの漫画家が描いた漫画100点による戦争の歴史」。編者ヘクトHechtは教育や子どもについての雑誌出版者で、戦時中にCPIの漫画局を設立した人物。

総力戦と視覚資料

松原 宏之 ●立教大学文学部教授

第一次世界大戦を記録した写真、絵画、風刺画は、アメリカ合衆国社会の経験を幾重にも読みほく資料群とすることができよう。

戦争にも写真時代が到来した。コダック社が牽引した小型カメラ開発が、写真撮影者の視野を広げていた。ハーフトーン印刷の普及は新聞や雑誌への写真掲載を容易にし、ビジュアル資料がマスメディアとしての威力を発揮しはじめていた。各国軍は写真を用いた報道に当初慎重だったが、第一次世界大戦は戦争が写真で報道される時代を本格化させた。1917年に参戦したアメリカ軍もまた通信部隊付きのカメラマンと後には民間カメラマンに写真撮影を許可した。本シリーズ第一部・第二部に収められた写真群は、新兵器が投じられた戦場だけでなく、兵士と軍団の日常、ヨーロッパ諸地域住民との交流まで、ヨーロッパへと遠征したアメリカ軍の動静を伝えてあまりある。

こうした視覚資料は、写真撮影者や編集者の意図の所在をうかがわせる意味でも興味深い。280万人に及ぶ民間人を徴兵し、戦後の国民を動員せねば、この総力戦をたたかうことはできなかった。本シリーズ第一部収録の米軍公式写真が提示したのは、時系列に沿って、兵士を動員し、進軍と戦闘を繰り返す、凱旋を果たすアメリカ軍の軌跡である。強調されたのは、指揮官パーシング將軍を筆頭に将校から兵卒の士気の高さであり、それゆえのゆたかな戦果とヨーロッパ諸地域での歓迎ぶりであった。それらは、アメリカ軍兵士の奮戦を記録し称揚すると同時に、国民から同意と納得を調達する試みでもあっただろう。なにが撮影と公開に値したかを検討するならば、この資料から読み取りうることは数多い。

比較しながら、第二部にみるアメリカ傷痍軍人会 (Disabled American Veterans) が1934年に刊行した写真集を見てみよう。提示されたアメリカ兵はいっそう勇壮と言えようか。戦場と兵士、航行する軍艦、戦闘機や車輛からマシンガンにいたる武器などとともにアメリカ軍の功績を誇示したうえで、二巻組の終盤に傷痍兵たちの姿を配した。ナチス・ドイツ、ソ連、イタリア、日本 (満州) の情勢を伝えて、アメリカに次の戦争の準備はあるかと問うて、その準備には傷痍兵対策が入らねばならないと訴えかけた格好である。南北戦争を契機にいち早く軍人への社会保障を始めたアメリカではあったが、在郷軍人会ほか諸団体が分立した1920年代を経て、1930年の退役軍人庁の発足とともに軍人たちへの社会保障制度はようやく基礎を固めた。福祉国家体制の起点として位置づけられる第一次世界大戦だが、従軍兵たちがただちに権利を手にしたわけではなかった。旧軍人が傷病に見合った保障を引き出すため

には、アメリカ社会にとっての従軍経験の価値を受容せしめる過程が必要であり、視覚資料はこうした折衝にも用いられた。

第三部が収録する絵画や風刺画は、ある意味では写真よりも能弁に、大戦当時の戦争観の諸相を描き出す。赤十字職員女性を射殺したドイツ人官憲を描いた漫画に「ドイツ文化 GERMAN "KULTUR"」と見出しをつけた含意はあきらかであろう。アメリカが体現する「文明」に及ばないドイツ「文化」を対照的に提示したのである。戦争債購入を呼びかけるポスターが、「フン族を止めよ」と題して、いまや女性を襲おうとするドイツ兵を制止するアメリカ兵を描くのと同様である。台頭する写真メディアに対抗するようにして、絵師や漫画家たちが自らの戦争への貢献を強調しようとした試みとしても読むことができるだろう。

もともと、こうした資料はときに、政府や軍、写真撮影者、芸術家たちの思惑を超えた事態を映し出しもする。第一次世界大戦はたしかに国力の総動員を必要としたが、その実践はたやすくなかった。徴兵可能な者を求めて国民を把握し、武器から食料にいたる生産を管理し、情報統制や監視をも用いて戦争への協力を調達するのは大事業であった。視覚資料は、こうした事態への喫緊の対処の痕跡であり、その対処が破綻しかねない場面をときに露呈する。

出征兵を見送って涙する女たちの写真は彼女らの貢献を顕彰するとともに、徴兵への抵抗感に英雄的な献身という物語枠組みを与えて不満不安を解消しようとする試みでもあっただろう。徴兵者を選出する「世紀のくじ引き」写真は、徴兵制度導入自体への根強い抵抗を念頭において始めてその写真がはらむ緊張感を読み解ける。写真集に繰り返し登場したのは、従軍して軍の運営を支えた女性たちや赤十字やYMCAといった民間団体であった。小さな常備軍しか持たなかったアメリカがにわか編成した軍隊の成功は危ぶまれたのであり、注目せざるを得なかったであろう。兵士たちの訓練や余暇のシーンもまた、多くの民間人を徴用した軍隊が不道德と不摂生の巣窟にならないかという懸念を払拭しようと撮影した側面があっただろう。解放した住民たちに迎えられる米兵の写真は、辺境国アメリカがはたしてヨーロッパで受け入れられるのかという心配への応答と言えよう。

戦果の鼓吹にとどまらずアメリカ軍の日常までを克明に映した写真や絵画は、政府や軍にあって総力戦を遂行しようとする人びとの関心や不安のありかをはしなくも垣間見せる。幾重もの検討に付されるべき資料である。

【発行】

Athena Press

株式会社 アティーナ・プレス



〒112-0011 東京都文京区千石4-33-18

Tel: 03(3946)2117 Fax: 03(5977)8026

E-mail: eigyo@athena-press.co.jp

http://www.athena-press.co.jp

【取扱書店】